

週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月26日(水)

《イエス様が本当に望んだこと》

今日の福音は(マルコ 10・32-45)共同体の一致を考え、分裂を防ぐためによく使われる内容です。この箇所をよく読んでみますと、イエス様の十二人の弟子達は、皆それぞれに違う性格の持ち主だったことがよく現れています。

では、ペトロはどんな性格の持ち主だったのでしょうか。開口的で、口が先に行ってしまう、振る舞いがついてこないタイプでした。そして血が熱つかったのです。イエス様が「どうすればいいか」と気にする様子が見えたりしたら、直ぐに「わたしがします」と言う性格の人でした。ですから口を出してからいつも、「守れない事を言ってしまった。」と後悔してしまうそんな人でした。性格的に弱いところもありましたね。ある意味では、卑怯な心の持ち主だとも言われています。しかし、イエス様はその卑怯さをも充分知った上で、ペトロを、私達の親分(最初の教皇様)として立てて下さったのです。そうでしょう。そして、皆様よくご存知の様に、「あなたと一緒に死ぬことになってあなたを知らないとは言わない」と強くイエス様に言い張っていたにもかかわらず、いざその時には裏切ってしまう。そして、「そんな人は知らない」と言いながらも、『鶏が二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう』(マルコ 14・72)とイエス様が自分に話したことを思い出して、泣き出してしまったと聖書は語っています。

結局その弱い心は、十字架の道行きにもついて行くことが出来ませんでした。そのような弱虫でした。しかし、イエス様は『あなたに天の国のかぎを授けよう。あなたが地上でつなぐものは、天においてもつながれる。あなたが地上で解くものは、天においても解かれるであろう。』(マタイ 16・19)という一番栄光の使命を与えたわけです。

私達はこのことを考えてみますと、ペトロのような弱い姿が、自分にも同じようがあると分かります。「何故わたしはこんなのだろう」と思う心を、誰でも持っていると思います。そういう時に、自分自身を神様に向けて行くのか、そうではなくて、自分を責めてばかりなのかが問題です。それによって、発展につながるか、その逆の方向に行ってしまうのかが決まるのではないのでしょうか。とにかく、「私はこんな弱虫でした。イエス様どうか助けて下さい。」という願いがあれば、その人は必ず正しい道を歩めます。しかし、いつも自分を責めてしまう人は、毎回後悔に陥ってしまいます。

さあ、今日のヤコブとヨハネは兄弟ですが、この二人は特別な性格ですよね。普通の共同体の中には見られないタイプの人達です。沢山の自分の仲間がいるにも関わらず、イエス様に『栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせて下さい。』と言うわけですから。今の時代そんな自分勝手に言ったらどうなりますか。とんでもない事ですよね。しかしこのようなタイプもいました。ユダはどうでしたか。頭が優れたものですがいつも打算的でした。そして、

イエス様に愛されたと言われるヨハネはどういう人でしたか。イエス様の肩によりかかって「何をなさるのでしょうか」と言っていたのですから女っぽい人でした。しかし、その一番女っぽいヨハネが一人だけ、十字架の前まで行ったのでしたね。ですから私達は、人の性格を見て「あの人、何の役に立つのか」とは言えないのです。本当にそうですよ。

このような人々をイエス様は弟子として選んで、それぞれに全部、殉教の冠をかぶせたのです。その殉教という言葉によって一致されます。そういうことを考えてみたら、私達にとって“神様”というその言葉自体が救いではないかと思えます。人間的な限り、限界、それを感じながらも私達は心をイエス様に傾けて行ければ、やはりそこには希望が生じると思えます。

これも昨年に申し上げたと思えますが、今日の福音の最後にある『いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。』という御言葉。実際にこれはイエス様がカバーをかけておっしゃった言い方だと思えます。イエス様が本当に望んでいらっしゃったのは“あなた方の中では、偉くなりたい気持ちさえ持つてはいけない” 「何故、上、下を、人間の社会で作るのか、何故、身分を作って人を分けたりするのか」と思われたのではないかとわたしは推測してみます。「偉くなりたい者は僕になりなさい。」と言うよりも、偉くなりたい気持ちさえ、私達の中に許されないその謙る心が必要ではないかと思えます。

この言葉はイエス様をご自分の話を沢山聞いて、いろいろな教えに触れた弟子達が、このような考えになっているので本当に心痛めたと思えます。私達もこういう癖、誰でも持っています。上に立とうとする心は、特に男の人は本能的なものです。しかし、このような心を私達が無くさなかったら、真のイエス様の福音の味は分からなくなってしまいます。そういう意味で、私達には毎日、何度も全ての関わりを、振り返ってみる余裕が必要ではないかと今日もう一回考えてみました。

ありがとうございました。